



麥作付面積及豫想收穫高

昭和十六年麥作付面積及豫想收穫高(北海道を除く)左の如し(農林省)  
 本年の麥作付面積及其前年との比較は

種	作付面積		前年作付面積		前年作付面積に比し増減(△は減)	同上割合
	町段	石	町段	石		
大麥	三五四、三二七	三五四、三二七	三三七、四〇二	三三七、四〇二	一六、八二九・五	〇・〇五〇
稗麥	四五七、七四五・五	四五七、七四五・五	三九三、二七・四	三九三、二七・四	六四、五二八・一	〇・二六四
小麥	七九一、三四六・六	七九一、三四六・六	八〇六、七五六・三	八〇六、七五六・三	一五、四〇九・七	〇・〇一九
計	一、六〇三、三三六	一、六〇三、三三六	一、五三七、三五・九	一、五三七、三五・九	六五、九四七・九	〇・〇四三

而して六月一日現在の麥豫想收穫高及其前年實收高との比較は

種	豫想收穫高		前年實收高		前年實收高に比し増減(△は減)	同上割合
	町段	石	町段	石		
大麥	七、一五六、七六〇	七、一五六、七六〇	七、四九〇、四六四	七、四九〇、四六四	三三三、七〇四	△ 〇・〇四五
稗麥	六、八七六、八〇〇	六、八七六、八〇〇	六、一五三、八八五	六、一五三、八八五	七三、九一五	〇・二一七

(備考) 麥豫想收穫高の調査時期は北海道は七月一日現在、青森外三府四十二縣は六月一日現在の二回とす

又前五箇年平均實收高との比較は

種	前五箇年平均實收高	同上割合
大麥	六、九三四、二七八	〇・〇三二
稗麥	五、八五五、三九九	〇・二七四
小麥	一〇、三〇九、九四二	〇・一〇七

第四回人口問題全國協議會報告書  
 「人口・民族・國土」及「國民資質・國民生活」の刊行

昨昭和十五年十一月十四、五兩日に互り財團法人人口問題研究會主催の下に開催された紀元二千六百年記念第四回人口問題全國協議會については既に本誌本欄所報の如くであるが、五部會に互り約百五十に及ぶ研究報告はこの程人口問題研究會より「人口・民族・國土」及び「國民資質・國民生活」と題する上下二巻の報告書として刊行を見るに到つた。所載研究報告題名については概ね本誌本欄既報の如くである。

一九三九年獨逸國勢調査の細目集計の發表(三)

一九三九年五月十七日施行の獨逸國勢調査結果の細目集計中その後の獨逸統計局機關誌 Wirtschaf u. Statistik 誌上に發表されたものよりその主要内容を再録すれば以下の如くである。

有業人口集計

本調査に於ける有業人口集計はなほ今後多少の補正を必要とする速報的數字ではあるが、變更は恐らく極めて僅少で其の實際的の效用については殆んど問題とするに足らぬ程度と考へられる。

その總集計は次の如くで、有業者總數約三千九百八十萬(兵役及び奉仕勞働中の男女を除く)、現住全人口(同上)の優に半數(五〇・一%)を占めてゐる。

現住人口總數	七,九三三,三三三	100
内、男	三,八七六,七〇七	100

有業人口總數	四,〇六三,六三六	100
内、男	三,九七九,四七七	50・1
内、女	二四,八七二	六四・一
獨立無業者(1)	七,四六三	九四
内、男	三,五二〇	九二
内、女	三,九四三	九七

本業なき從屬者	三〇,八七三	三八八
内、男	九,〇一一	二三・五
内、女	二一,七六二	五三・五

(1) 主として年金生活者、自己の財産による生活者若くは救助金による生活者なり。  
 尚、右獨立無業者並に本業なき從屬者中の約百萬人は副業を有つてゐるので、本副業合計の有業者總數は四千百萬人近くになることになる。